



益城中学校だより

第6号

R6. 1. 31

<https://jh.higo.ed.jp/mashiki>

# FROM 益城中

年明けに想像もしなかった大きな地震が能登半島で起こりました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げたいと思います。

道路や橋、家屋等が被害を受け、多くの方々が避難所で生活されている被災地の映像を見る度に熊本地震が思い出されます。益城町民にとって、今回の能登半島地震は決して人ごとではないということから、本校生徒会の発案により、被災地の中学生に義援金を送ることにしました。

熊本地震の際には、本校も全国から義援金や支援物資、応援のメッセージ等を多数いただきました。そのことは、物的な不足を補えたのは当然のことながら、全国の皆さんの支援や応援が希望という感情を持つことにつながったと思います。

本校が、熊本地震の際に受けた支援や応援をいくつか顧みます。

## 人的支援

人的な支援に関しては、まず、本校の管理者である益城町教育委員会に被災直後から数多くの人的支援をいただきました。当時の町教育委員会の所在地は、地震による被害が大きかった地域であったことから、通信手段の術を失いました。しかし、多くの職員が本校まで自力で足を運びながら支援をしていただきました。

また、公的な機関は対応しなければならない範囲が広すぎるため、地震直後から、子供たちを対象とした数多くのNPOから人的支援が学校に直接ありました。がれきの撤去や学校再開に必要な物資の調達まで、経験と人脈を使って協力していただきました。学校再開後も、学校行事や日頃の授業、放課後学習会に長期にわたって関わっていただきました。

県教育委員会の各課からは数名の職員を派遣していただきました。自分自身の仕事もありながら、学校が頼めばどんな内容の仕事でも労を厭わずに協力していただきました。また、生徒の心的な負担を和らげ安心して学校生活を送れるように、カウンセラーの先生を多数派遣していただきました。益城中学校は生徒数が多いですが、長期間派遣していただいたのでほとんどの生徒が一度はカウンセリングを受けることができました。

被災後の学校は、何をしても労力がかかるものです。そこで、県教育委員会と氷川町・八代市教育委員会の御厚意により、指導力の秀でた先生を長期にわたって派遣していただきましたし、この他にも新たな職員を県教育委員会から数名配置していただきました。この加配職員については、現在まで継続して配置していただいています。

なお、人的な支援は県内に留まらず、他県の教育委員会からも職員やスクールカウンセラーの派遣があり、当時は大変助かりました。

この他、トップアスリートから生徒を励ましてもらったり、一流の芸術家から部活動の指導を受けたりと、数限りない方々の人的支援をいただきました。



【室伏広治氏による講演会】【佐渡裕氏による演奏指導】

## 物的支援

制服や体操服、靴や通学バッグ、学用品などが、家屋損壊・倒壊とともに使えなくなった生徒が大勢いましたが、卒業生や保護者の皆さんが自発的にリサイクル品を学校に届けてくれました。また、制服業者やスポーツ店、教科書会社等からの無償提供により学校再開の準備を進めることができました。地震の直後から、安否確認や情報共有にSNSが活躍しましたが、被災した仲間を気遣う支援の輪が広がっていったのもSNSによるものでした。

学校の完全再開に向けては、給食センターが全壊しており、給食をどうするかという問題がありました。熊本市の調理場で給食がつくられるようになるまで、複数のNPOからの補助により簡易給食が実施されたり、業者の協力により弁当給食が行われたりしました。

不安を抱えながら学校を再開しましたが、いざ再開してみると、パソコンや電子黒板、液晶モニターを始め、学習器具や教具類等、生徒が学習するうえで必要な物の全てが、各団体や企業等の御厚意で送られてきました。何も支障なく授業を行えたのは、全国の皆さんの支援のおかげでした。

また、生徒が学校生活を行ううえで必要な物品の支援に加え、生活必需品等の物資も多数いただきました。

数々の支援物資が全国から届きましたが、地震により壊れてしまった物の中には、新たに購入するしかないものもありました。それらの購入には、全国の小・中学校や各種団体・個人から送られてきた義援金がとても役立ちました。復旧・復興に役立てて欲しいと全国から義援金等お送りくださった皆さんに大変感謝したことを思い出します。また、時には、学校運営に桁外れの資金が必要になり途方に暮れたこともありましたが、その都度、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン等のNPOやライオンズクラブの皆さんに助けられました。



【寄贈品を学習に活用】



【飲料水も支援物資を活用】

地震直後は、山積みになっている目の前のことに対して、何から手を付けてよいか、どう手を付けてよいかわからずに、多くの職員が途方に暮れていました。しかし、復旧・復興に向け手伝っていただく方々の温かさやふれたり、全国から送られてくる支援物資や義援金をくださった方々の思いにふれた時に「希望」が芽生えていきました。

今回、生徒会のみんなが集めた義援金には、熊本地震の経験者だから分かる被災者への思いが詰まっています。義援金を応援メッセージとともに能登半島の中学生に届けようと思います。



【当時、全国から益城中に届いたメッセージ】

### 【2月の行事予定】

月 日	曜	行 事	月 日	曜	行 事
2/ 7	水	学年末テスト（3年生）	16	金	学校に行こうデー
~ 8	木		21	水	卒業認定会
9	金	公立入試前期選抜結果通知	※ あくまでも予定です。 諸事情により中止や変更もあります。		
14	水	私立一般入試（3年生は遅延登校）			
~ 15	木	学年末テスト（1・2年生）			